

7 環境学習と情報の共有

▶ 現況と課題

◆ アンケートでは、市民の環境学習への参加割合は低く、また、参加しない理由では時間が合わないことや情報不足が多くあげられており、環境学習の機会が十分ではないのが現状です。

今後は多様な学習機会を増やしていくとともに、市民の環境に対する興味を高め、学習活動への参加を広く呼びかけていくことが重要となっています。

そのためにも、市民が環境について学ぶことを促進するだけにとどまらず、学習を通じて身につけた知識や技術を地域社会に還元し、活用できるようしくみづくりが重要であるといえます。

◆ 市では、これまでも地域と結びついた教育の推進に努めてきましたが、平成14年からは、完全学校5日制の実施や総合的な学習の時間が導入されることから、環境教育に関しても地域とのより密接な結びつきが求められています。

また、小・中学生のアンケートでは、学校教育での環境学習への期待・関心も高まりをみせており、体験を通じた環境教育のより一層の充実が必要となっています。

◆ 市では、ホームページ[※]の開設などインターネットを活用した情報提供の充実に努めており、環境に関する情報も、広報やホームページを通じて啓発を進めています。

今後は、これらの機能充実に加え、新たな情報提供の方策を検討したり、市民が自由に情報を収集・発信することができるシステムづくりを進めていく必要があります。

また、それによって環境に関わる情報や知識・技術を市・市民・事業者で共有し、相互に環境意識を育んでいくことが求められています。

※ホームページ/home page www(ワールド・ワイド・ウェブ)のこと。インターネット上にある情報提供ページ。



環境学習



市民による環境講座



基本目標 (7) 環境について知る・学ぶ機会をふやす

管理指標

- 市民環境講座の参加率を60%以上とすることを目標とします。
- こどもエコクラブの加入グループ数を小学校区ごとに1つ以上を目標とします。
- 環境情報センターを平成16年までに整備します。

施策の方向

[基本目標]

環境について知る・学ぶ機会をふやす

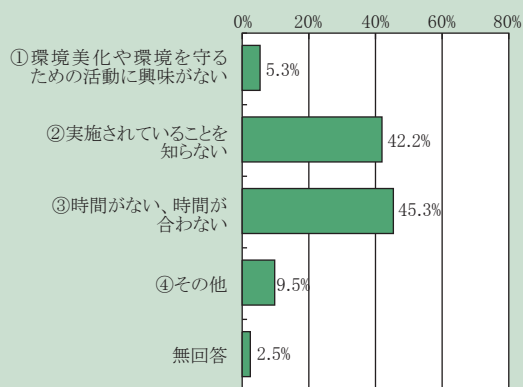
[施策の方向]

S 環境教育・学習を推進する

T 環境情報の共有化を進める

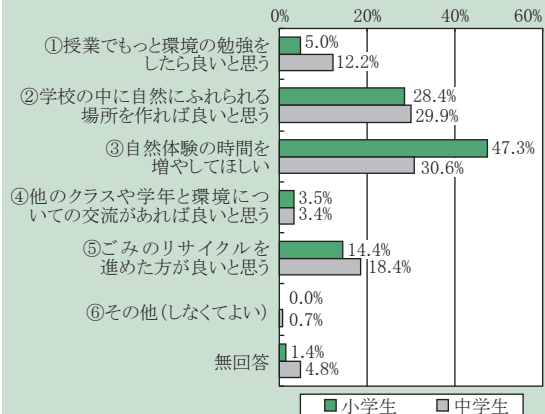
活動に参加しない理由は…

[環境美化や環境を守る活動への参加意向]



学校での取り組みについて…

[今後学校で取り組むべきだと思うこと]



出典：「平成12年度塩竈市環境アンケート」

市民の学習ニーズに対応できる多様な環境教育の機会を提供・推進するとともに、市民の環境への関心を高め、環境学習への参加を促進するような、身近でわかりやすい学習プログラムをつくります。

また、子どもの頃から環境について知り、学ぶことができるよう、学習教材の提供など、学校における環境教育を地域社会と連携して進めます。

具体的施策

- 多様な学習ニーズに対応する環境教育・環境学習活動の機会を拡大していきます。
 - ◇ 環境学習プログラムの作成、提供
 - ◇ こどもエコクラブの推進
- まちの歴史から環境保全に役立つ暮らし方やまちづくりを学び、活用していきます。
 - ◇ 「塩竈学」まちづくり学習事業の推進
- 総合的な学習の時間などを活用した環境教育を進めます。
 - ◇ 小中学校総合的学習及び体験学習の推進
 - ◇ 環境教育に関する教職員の研修・研究活動の推進
 - ◇ 環境教育副読本の作成、活用
 - ◇ 学校におけるビオトープの整備



自然体験学習



こどもエコクラブ

T

環境情報の共有化を進める

誰もが必要に応じて環境情報を入手することができ、また自らの情報を自由に発信できる環境をつくるとともに、市の広報やホームページなどの多様な情報提供ツールの充実を図ります。

また、市民・事業者・市が常に情報を共有し、双方向の意見交換ができるよう、情報ネットワークの構築を図ります。

具体的施策

- 環境情報を収集・発信するとともに、市民・事業者・市の情報共有の場として利用できる拠点を整備します。
 - ◇ 環境情報センターの整備【再掲】
- 広報やホームページなど、市民の目にふれやすい情報提供ツールを充実していきます。
 - ◇ 環境情報センターの活用推進
 - ◇ 環境情報誌など情報提供ツールの充実
 - ◇ 図書館などへの環境コーナーの設置
- シンポジウムや協議会の開催など、市民・事業者・市が交流し環境情報の共有化を図ります。
 - ◇ シンポジウムや協議会の開催、参加促進



環境シンポジウム



しおがま環境オープン会議